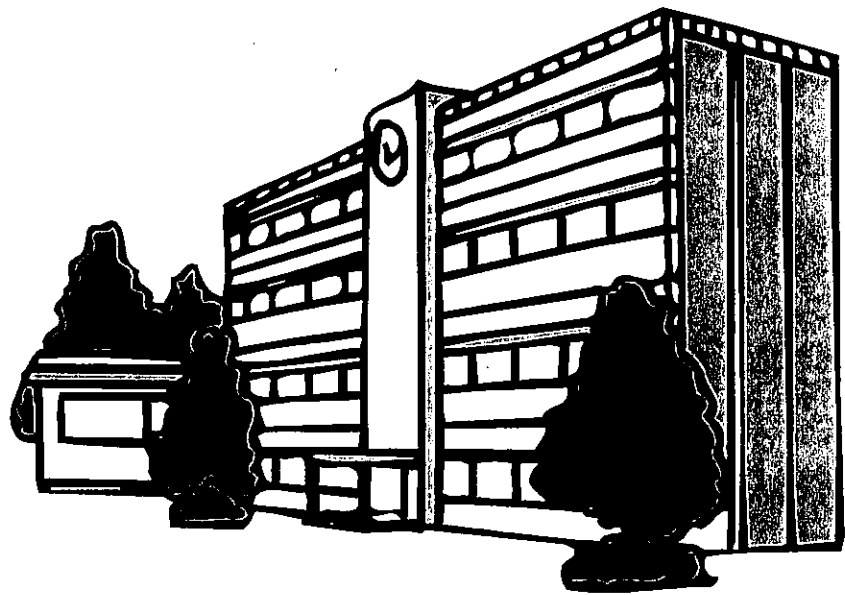


平成27年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の

点検及び評価報告書



南富良野町教育委員会

～ 目 次 ～

1	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等について・・・	1
2	教育委員会会議等の開催状況	2～5
3	教育委員の活動状況	6～11
4	児童生徒の活動状況（部活動等）	12～15
5	教育委員会の予算・決算の状況	16
6	教育行政執行方針の概要	17
7	教育行政執行方針に基づく点検・評価対象事業一覧	18～19
8	教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価の方法	20～22
9	教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧	23～34
10	前年度点検・評価対象事務・事業の状況	35～36
11	学識経験者	37
12	教育委員会の組織	38

1 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等について

(1) 点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくために、同法第 26 条の規定に基づき、平成 27 年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

(2) 点検及び評価の対象

平成 27 年度の「教育行政執行方針」に基づき教育委員会が実施した主な事務・事業を対象として、自己点検及び自己評価を行います。

又、教育委員会や各種審議会の会議の開催状況や教育委員の活動状況、児童生徒の部活動等における活動状況なども評価の対象としています。

(3) 点検及び評価の方法

(ア) 点検及び評価の観点

教育委員会会議の開催状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、事務・事業等については、事業の実績や成果等から必要性、有効性、効率性の観点から点検及び評価を行い、課題等を踏まえた今後の取組の方向性等を明らかにしています。

(イ) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が行った教育委員会の活動状況や事務・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

2 教育委員会会議等の開催状況

平成27年度における教育委員会会議及び教育委員会が所掌する各種審議会等の開催状況は、次のとおりです。

(1) 教育委員会会議開催状況

①教育委員会定例会

区 分	期 日	付 議 事 件
第4回	平成27年5月27日	・教育財産の取得について ・工事請負契約の締結について ・平成27年度教育費等の補正予算について ・平成27年度要保護準要保護児童生徒の認定について ・南富良野町立学校評議員の委嘱について ・南富良野町社会教育委員の委嘱について
第5回	平成27年7月9日	・南富良野町教育委員会教育行政評価委員の委嘱について
第6回	平成27年9月7日	・専決処分の承認を求めることについて ・財産取得について ・平成26年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について ・平成27年度教育費等の補正予算について ・平成27年度学校職員の人事について
第7回	平成27年12月4日	・南富良野町立高等学校職員の昇給及び勤勉手当に係る取扱要綱の一部改正について ・評定記録作成要領の一部を改正する要領について ・平成27年度学校職員の人事について ・平成27年度教育費等の補正予算について
第1回	平成28年1月14日	・南富良野町立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部を改正する規則について ・南富良野町学校運営協議会の規則の制定について ・南富良野町学校運営協議会の設置に関する要綱について
第2回	平成28年3月2日	・平成27年度教育費等の補正予算について ・南富良野町スクールバスの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・南富良野町立高等学校の通学自動車の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・平成28年度教育費等の予算について

2 教育委員会会議等の開催状況

区 分	期 日	付 議 事 件
第3回	平成28年3月25日	・南富良野町教育委員会事務局組織規則の一部改正する規則の制定について ・南富良野町教育支援委員会設置規則の一部を改正する規則の制定について ・平成28年度教育委員会の人事について ・平成28年度学校職員の人事について

②教育委員会臨時会

区 分	期 日	付 議 事 件
第2回	平成27年8月28日	・平成28年度から使用する中学校用教科用図書の採択について
第3回	平成27年10月1日	・南富良野町教育委員会委員長の選挙について ・南富良野町教育委員会委員長職務代理者の指定について

教育委員会議は、原則として毎月1回、定例会又は臨時会を開催することとしており、平成27年度は定例会7回、臨時会2回の開催となり、教育に関する様々な案件について検討し、議論・議決を行いました。

会議については、開催時間を夜間に設定するなど、教育委員会の合議制の観点から全ての委員が出席した中で各種議題の審議を行うよう努めております。

今後においても、教育を取り巻く課題等に対応した施策の推進に向けて、十分な議論や審議を行っていく必要があると考えています。

(2) 各種委員会議等開催状況

①南富良野町総合教育会議

区 分	期 日	協 議 事 項
第1回	平成27年12月4日	・新教育委員会制度について ・総合教育会議について ・総合教育会議設置要綱について ・教育に関する大綱の策定について
第2回	平成28年3月25日	・南富良野町教育大綱（決定）について ・意見交換

2 教育委員会会議等の開催状況

①いじめ対策協議会

区 分	期 日	協 議 事 項
第 1 回	平成 28 年 3 月 24 日	・南富良野町子どもいじめ防止条例（概要）について ・南富良野町子どもいじめ対策協議会の設置について

②社会教育委員会議

区 分	期 日	審 議 事 項
第 1 回	平成 27 年 6 月 23 日	・社会教育について ・平成 27 年度社会教育・社会体育・公民館分館事業計画について ・子ども朝活事業について ・社会教育委員研修会等の参加について
第 2 回	平成 27 年 10 月 15 日	・平成 27 年度社会教育・社会体育・公民館事業上半期実施報告について
第 3 回	平成 28 年 3 月 10 日	・平成 27 年度社会教育・社会体育・公民館事業下半期実施報告について ・平成 28 年度社会教育・社会体育・公民館事業計画について ・社会福祉協議会役員の推薦について

③スポーツ推進委員会議

区 分	期 日	審 議 事 項
第 1 回	平成 27 年 5 月 25 日	・平成 26 年度社会体育施設並びに学校開放利用実績について ・平成 27 年度社会体育事業計画について ・スポーツ推進委員研修会等について
第 2 回	平成 27 年 10 月 29 日	・平成 27 年度社会体育事業上半期実施報告について ・平成 27 年度社会体育事業予定（下半期）について ・南富良野町スポーツ推進計画の進捗状況について
第 3 回	平成 28 年 3 月 14 日	・平成 27 年度社会体育事業下半期実施報告について ・平成 28 年度社会体育事業について ・スポーツ大会（ミニバレーボール大会）の方向性について

2 教育委員会会議等の開催状況

④文化財審議会

区 分	期 日	協 議 事 項
第 1 回	平成 28 年 3 月 24 日	・郷土資料室の現状及び利用状況について ・町の指定状況について ・史跡マップについて ・史跡めぐりにについて ・史跡標柱の設置について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 27 年 4 月 1 日に施行され、全ての地方公共団体において総合教育会議の設置と教育大綱の策定が求められたことから、南富良野町教育委員会としても、平成 27 年度に総合教育会議を設置し、教育大綱を策定しました。

また、この他にも平成 27 年度新たに、いじめ防止等のための推進を図るため、附属機関としていじめ対策協議会も設置しています。

教育委員会に設置している主な審議機関等では様々な議題について審議をしてきており、各種会議においては、予定通り開催され、各種議題の審議等を行いました。

3 教育委員の活動状況

平成 27 年度における教育委員の活動状況は、次のとおりです。

(1) 教育委員の活動実績

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 27 年 4 月 3 日	平成 27 年度教職員辞令交付式及び着任式	役場大会議室
平成 27 年 4 月 7 日	下金山小学校入学式	下金山小学校
	金山小学校入学式	金山小学校
	南富良野小学校入学式	南富良野小学校
	南富良野中学校入学式	南富良野中学校
平成 27 年 4 月 8 日	南富良野高等学校入学式	南富良野高等学校
平成 27 年 4 月 9 日	第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会	旭川市
平成 27 年 4 月 9 日～ 平成 27 年 4 月 10 日	上川管内教育委員会教育長会議	旭川市
平成 27 年 4 月 13 日	千里大学始業式	保健福祉センター
	林野予消防対策協議会	
平成 27 年 4 月 14 日	金山・下金山小学校統合推進協議会推進専門部会	金山コミュニティセンター
	公立高等学校配置計画地域別検討協議会	旭川市
平成 27 年 4 月 16 日	北海道公民館協会上川支部総会	旭川市
平成 27 年 4 月 22 日	上川管内教育委員会連合会総会並びに委員研修会	旭川市
	北海道公民館協会定期総会	札幌市
平成 27 年 4 月 27 日	南富良野町 P T A 連合会総会	南富良野中学校
平成 27 年 5 月 8 日	富良野沿線教育長会議	富良野市
平成 27 年 5 月 14 日～ 平成 27 年 5 月 15 日	北海道町村教育委員会連合会総会	札幌市

3 教育委員の活動状況

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 27 年 5 月 16 日	北海道カヌー協会総会	札幌市
平成 27 年 5 月 18 日	北海道公立文教施設整備期成会定期総会	札幌市
平成 27 年 5 月 20 日	金山・下金山小学校統合推進協議会推進専門部会	下金山多目的センター
平成 27 年 5 月 22 日	上川管内図書館協議会総会	旭川市
平成 27 年 5 月 23 日	町民カヌー教室	かなやま湖
平成 27 年 5 月 25 日	南富良野町特別支援教育連絡協議会	南富良野中学校
平成 27 年 5 月 31 日	南富良野中学校体育祭	南富良野中学校
平成 27 年 6 月 1 日	第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会	旭川市
平成 27 年 6 月 4 日～ 平成 27 年 6 月 5 日	北海道高等学校カヌー選手権大会兼全国高等学校総合体育大会カヌー競技北海道予選会	かなやま湖
平成 27 年 6 月 7 日	南富良野小学校運動会	南富良野小学校
平成 27 年 6 月 9 日	国際交流派遣事業報告会	南富良野高校
平成 27 年 6 月 10 日	富良野地区中体連陸上競技大会	富良野市
平成 27 年 6 月 13 日	金山小学校・金山民主会合同第 11 回金山合同大運動会	金山小学校
平成 27 年 6 月 14 日	下金山小学校・下金山地区連合大運動会	下金山小学校
平成 27 年 6 月 16 日	上川管内コンプライアンス確立会議	旭川市
	上川管内教育委員会連合会のあり方検討にあたっての意見交換会	旭川市
平成 27 年 6 月 25 日	占冠村・南富良野町合同教育懇談会	占冠村
平成 27 年 6 月 30 日	新着任教職員の町内視察研修	富良野市
平成 27 年 7 月 3 日	富良野地区中体連球技大会	富良野市、上富良野町
平成 27 年 7 月 5 日	南富良野町消防総合演習	南富良野小学校

3 教育委員の活動状況

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 27 年 7 月 7 日	戦没者慰霊祭	保健福祉センター
平成 27 年 7 月 7 日～ 平成 27 年 7 月 8 日	上川管内教育委員会教育長会議	旭川市
平成 27 年 7 月 9 日～ 平成 27 年 7 月 10 日	第 52 回北海道市町村教育委員研修会	札幌市
平成 27 年 7 月 17 日～ 平成 27 年 7 月 18 日	町立高等学校自治体総合戦略推進セミナー	札幌市
平成 27 年 7 月 21 日	金山・下金山小学校統合推進協議会推進専門部会	金山コミュニティーセンター
平成 27 年 7 月 22 日	公立高等学校配置計画地域別検討協議会	旭川市
平成 27 年 7 月 23 日～ 平成 27 年 7 月 24 日	上川管内教育委員会連合会委員長部会研修会	音威子府村
平成 27 年 7 月 27 日	第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会	旭川市
平成 27 年 7 月 28 日	子ども朝活事業	町民体育館
平成 27 年 8 月 3 日	第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会	旭川市
平成 27 年 8 月 27 日	福祉スポーツ大会	町民体育館
平成 27 年 9 月 4 日	金山・下金山小学校統合推進協議会推進専門部会	下金山地区多目的センター
平成 27 年 9 月 13 日	南富良野中学校学校祭	南富良野中学校
平成 27 年 9 月 27 日	町民ソフトボール大会	湖畔野球場・山村広場
平成 27 年 9 月 29 日	南富良野町 P T A 連合会研修会	保健福祉センター
平成 27 年 9 月 30 日～ 平成 27 年 10 月 1 日	札幌南ふらの会総会	札幌市
平成 27 年 10 月 4 日	町民フロアカーリング大会	南富良野小学校
平成 27 年 10 月 7 日	金山・下金山小学校統合推進協議会推進専門部会	金山コミュニティーセンター
平成 27 年 10 月 8 日～ 平成 27 年 10 月 9 日	上川管内教育委員会教育長会議、連合会教育長部会研修会	上富良野町

3 教育委員の活動状況

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 27 年 10 月 10 日	町民マラソン大会	山村広場
平成 27 年 10 月 14 日	南富良野高等学校数学教育セミナー	南富良野高等学校
平成 27 年 10 月 16 日	南富良野町小中学生文化発表会	保健福祉センター
平成 27 年 10 月 17 日	金山小学校学芸会	金山小学校
平成 27 年 10 月 23 日～ 平成 27 年 10 月 25 日	本部町庁舎完成式及び祝賀会	沖縄県本部町
平成 27 年 10 月 24 日	南富良野小学校学芸会	南富良野小学校
平成 27 年 10 月 26 日	韓国高校生による南富良野高校訪問	南富良野高等学校
平成 27 年 10 月 27 日～ 平成 27 年 10 月 28 日	北海道町村教育委員会連合会教育長部会 研修会	札幌市
平成 27 年 10 月 30 日	富良野広域連合教育委員会議	富良野市
平成 27 年 11 月 3 日	南富良野町功労者表彰式	保健福祉センター
平成 27 年 11 月 5 日～ 平成 27 年 11 月 6 日	上川管内教育委員会連合会委員研修会	東神楽町
平成 27 年 11 月 7 日	下金山小学校学芸会	下金山小学校
平成 27 年 11 月 14 日	防犯と交通安全の住民集会	保健福祉センター
平成 27 年 11 月 19 日	へき地、複式教育研究連盟研究大会	金山小学校
平成 27 年 11 月 21 日	ジュニアカーリング大会	落合スポーツリンク ス
平成 27 年 11 月 28 日	日本ハムファイターズ交流事業	南富良野高等学校
平成 27 年 12 月 4 日	南富良野町総合教育会議	南富良野町役場
平成 27 年 12 月 6 日	レディース・男子ミニバレーボール大会	町民体育館
平成 27 年 12 月 12 日	南富良野小学校土曜授業	南富良野小学校
平成 27 年 12 月 19 日	南富良野高校体育大会	南富良野高等学校
平成 27 年 12 月 26 日	子ども朝活事業	保健福祉センター

3 教育委員の活動状況

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 28 年 1 月 4 日	南富良野消防出初式	保健福祉センター
平成 28 年 1 月 6 日	南富良野町新年交礼会	情報プラザ
平成 28 年 1 月 10 日	平成 28 年南富良野町成人式	保健福祉センター
平成 28 年 1 月 17 日	南富良野町子ども会かるた大会	保健福祉センター
平成 28 年 1 月 19 日～ 平成 28 年 1 月 20 日	上川管内教育委員会教育長会議	旭川市
平成 28 年 2 月 2 日	全国中体連スキー大会開会式	富良野市
	富良野沿線教育長会議	富良野市
平成 28 年 2 月 9 日	富良野広域連合教育委員会議	富良野市
	上川南部教育委員会教育委員研修会	富良野市
平成 28 年 2 月 12 日	上川教育研修センター組合委員会	旭川市
平成 28 年 2 月 14 日	町民ミニバレーボール大会	町民体育館
平成 28 年 2 月 21 日	南富良野高等学校広報用務	札幌市
平成 28 年 2 月 27 日	下金山小学校閉校式	下金山小学校
平成 28 年 3 月 1 日	南富良野高等学校卒業式	南富良野高等学校
平成 28 年 3 月 5 日	金山小学校閉校式	金山小学校
平成 28 年 3 月 10 日	高齢者叙勲伝達用務	旭川市
平成 28 年 3 月 15 日	南富良野中学校卒業式	南富良野中学校
平成 28 年 3 月 18 日	南富良野小学校卒業式	南富良野小学校
平成 28 年 3 月 19 日	金山小学校卒業式	金山小学校
	下金山小学校卒業式	下金山小学校
平成 28 年 3 月 22 日	上川管内教育委員会連合会の組織の在り方 検討委員会	旭川市

3 教育委員の活動状況

区 分	行 事 名 等	場 所
平成 28 年 3 月 24 日	千里大学卒業式	保健福祉センター
平成 28 年 3 月 25 日	南富良野町総合教育会議	南富良野町役場
	平成 27 年度教職員退職辞令交付式及び教職員離任式	南富良野町役場
平成 28 年 3 月 28 日～ 平成 28 年 3 月 29 日	上川管内教育委員会教育長会議	旭川市

教育委員会には、地域全体の教育、学術、文化、スポーツの振興を図るという社会的な使命があり、総合的な視点に立って活動していく必要があります。

教育委員は、会議における審議以外に教育現場を訪問することや、各種行事や研修会等に参加することで、教育現場の状況の把握及び教育委員としての能力向上に努めています。

今後も教育現場の訪問や研修会等に積極的に参加し、教育に関する課題の把握に努め教育委員会に期待される役割、機能を十分果たしていくよう活動して参ります。

4 児童生徒の活動状況（部活動等）

平成 27 年度における児童生徒の部活動等における活動状況は、次のとおりです。

（１）少年団活動

ク ラ ブ 名 等	所属人数	活 動 状 況
野球スポーツ少年団	23人	○スポーツショップ MINO 杯少年野球大会 ○全日本学童野球大会富良野支部予選会 ○全道少年軟式野球富良野支部大会 ○太陽グループ杯争奪全道少年野球選抜富良野大会 ○富良野沿線少年野球リーグ戦 ○富士スポーツ杯争奪少年大会 ○トップボール杯争奪少年野球大会 ○富良野沿線少年野球新人戦大会 ○富良野沿線秋季学童野球交流大会
バレーボールスポーツ少年団	10人	○富士スポーツ杯小学生バレーボール大会 ○三野スポーツ杯小学生バレーボール大会 ○道新カップバレーボール大会富良野地区予選会 ○富良野地区小学生バレーボール大会 ○富良野市スポーツ少年団本部小学生バレーボール大会 ○スポーツショップ三野杯小学生バレーボール大会
カーリングスポーツ少年団	22人	【小学生のみ】 ○おさだグループ杯 U-12 カーリング大会 2015 【小・中学生】 ○北海道新聞社杯南富良野ジュニアカーリング選手権大会 ○ゆっく・南ふらのカップカーリング大会 ○道央ブロックジュニア選手権大会 ○トリノオリンピック出場記念小松杯 ○2016 スプリングカップ ○フレンドシップジュニアカーリング大会
スキースポーツ少年団	23人	【小学生】 ○かなやま湖ジュニアGS大会 ○ハウスカップ決勝大会 ○全道かもい岳ジュニア大会 【小・中学生】 ○ジュニアオリンピック

4 児童生徒の活動状況（部活動等）

（２）南富良野中学校部活動

ク ラ ブ 名 等	所属人数	活 動 状 況
野球部	20人	☐ 富良野沿線中学野球大会 ☐ 全日本少年軟式野球支部大会 ☐ 中体連富良野地区軟式野球大会 ☐ ロータリークラブ杯中学野球大会 ☐ 富良野沿線中学軟式野球新人戦
卓球部	20人	☐ 富良野沿線春季卓球大会 ☐ 道新杯争奪卓球大会 ☐ 金井杯富良野地区卓球大会 ☐ ニッタク杯争奪卓球大会 ☐ 会長杯争奪卓球大会 ☐ 中体連富良野地区卓球大会 ☐ 紅葉杯争奪卓球大会 ☐ 沿線中学新人戦兼 TSP 杯卓球大会
ソフトテニス部	16人	☐ 春季富良野沿線中学生ソフトテニス大会 ☐ 富良野沿線中学生ソフトテニス大会 ☐ 中体連富良野地区ソフトテニス大会 ☐ 上川管内代表決定戦ソフトテニス大会 ☐ 富良野沿線中学生ソフトテニス新人戦 ☐ 富良野沿線中学生インドアソフトテニス大会 ☐ 中学校指導者協議会杯中学生インドアソフトテニス大会
バレー部	3人	☐ 富良野Vリーグ ☐ 富良野地区中学校新人戦バレーボール大会 ☐ m.mino sports CUP 中学校バレーボール大会 ☐ 富士スポーツ杯中学校親睦バレーボール大会
吹奏楽部	10人	☐ 北海道吹奏楽コンクール旭川地区予選 ☐ 定期演奏会 ☐ 北海道アンパルコンクール旭川地区予選
陸上部（季節部）	7人	☐ 富良野地区中学校陸上競技大会
剣道部（季節部）	2人	☐ 中体連富良野地区剣道大会 ☐ 上川代表決定戦中体連剣道大会 ☐ 上川管内中体連剣道大会新人戦
スキー部（季節部）	4人	☐ 中体連富良野地区スキーアルペン大会 ☐ 北海道中学生スキー大会アルペン競技 ☐ 全国中学校スキー大会アルペン競技

4 児童生徒の活動状況（部活動等）

（3）南富良野高等学校部活動

ク ラ ブ 名 等	所属人数	活 動 状 況
バトミントン部	9 人	○高体連予選 ○新人戦予選
卓球部	8 人	○高体連予選 ○新人戦予選 ○国体道予選
カヌー部	6 人	○高体連全国大会 ○国体全国大会 ○文部科学大臣杯日本カヌースプリントジュニア選手権大会
カーリング部	7 人	○道央ブロックジュニア大会 ○道央ブロック選手権大会 ○全道高校選手権大会 ○全国高校選手権大会 ○南富良野ジュニア大会
吹奏楽部	6 人	○学校祭における発表 ○ふれあいフェスタ演奏 ○かなやま湖湖水まつり演奏 ○神社祭演奏 ○オータムコンサート ○富良野地区吹奏楽祭
資格取得部	14 人	○日本語ワープロ検定 ○全経簿記能力検定 ○情報処理技能検定 ○日本語検定 ○実用英語検定 ○漢字能力検定 ○語彙・読解力検定

（4）部活動等の活動状況について

教育委員会としては、児童生徒の体力の向上及び運動能力の増進並びに文化活動の助長を図ることを目的として少年団活動に対する補助金の交付や中学校及び高等学校における部活動に対する財政的支援を行っております。

今後も、児童生徒が健康で明るく活気に満ちた生活を送ることのできる環境づくりに取り組んでいく必要があると考えており、引き続き体育・文化活動に対する支援を

4 児童生徒の活動状況（部活動等）

行って参ります。

5 教育委員会の予算・決算の状況

平成 27 年度における教育委員会予算・決算の状況は、次のとおりです。

(単位：千円)

費 目	平成 27 年度	
	予 算 額	決 算 額
一般会計総額	5,007,214	4,884,093 (うち繰越明許費 29,558)
10 款 教育費	1,178,920	1,109,013
1 項 教育総務費	45,391	44,798
1 目 教育委員会費	45,391	44,798
2 項 小学校費	907,291	842,133
1 目 学校管理費	907,291	842,133
3 項 中学校費	22,852	21,548
1 目 学校管理費	22,852	21,548
4 項 高等学校費	148,105	147,059
1 目 高等学校総務費	111,080	110,840
2 目 学校管理費	37,025	36,219
5 項 社会教育費	33,708	32,788
1 目 社会教育総務費	14,349	13,694
2 目 公民館費	19,359	19,094
6 項 保健体育費	21,573	20,687
1 目 保健体育総務費	21,573	20,687

平成 27 年度の一般会計における教育費の占める割合は、予算額では 23.5%、決算額では、22.7%となっています。

6 教育行政執行方針の概要

平成 27 年度の南富良野町教育行政執行方針では、次のとおり基本理念や基本方針、各分野ごとの基本目標を示しています。

1 基本理念

日本の未来を担う子ども達には、基礎的な学習、基本的な知識、多様な社会への応用力を養い、健全な発育を促す体力を身に付けさせる。
町民一人ひとりが、生涯にわたり心身ともに健康で生きがいのある人生を送ることができる環境づくりをしていく。

2 基本方針

理念に基づき、教育における課題を解決するため、関係機関や各種団体と連携し地域に根付いた教育行政の推進に努める。

3 基本目標

①学校教育（義務教育）関係

子ども達の成長を確かなものとするため、子ども達を地域社会や学校が的確に援助することが大切であり、各学校の教育目標に沿って具体的指針を学校経営の重点として示し、子ども達を教育していく。

平成 28 年度 4 月開校を目指す金山、下金山両小学校を統合する新設校の校舎建設工事を着工する。

地域の特色を生かした総合学習を取り入れ、南富良野町ならではのカー・カーリングの実践と希少動物のイトウの生態学習を行いながら、自然豊かな郷土を実感する学習を進める。

②高等学校関係

生徒達一人ひとりの能力や適正及び進路に応じた教育活動を実践し、豊かな心の育成を目指して、様々な活動を体験させるなど地域の特色を生かした学校づくりに努め、小さな学校だからできる授業、地域と共に歩む高校を目指す。

③生涯学習関係

豊かな自然や歴史・文化などを活用して、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、子どもから高齢者まで、時間的、精神的ゆとりの中で、いつでも、どこでも、だれもが自由に学ぶことができる環境づくりに配慮する。

7 教育行政執行方針に基づく点検・評価対象事務事業一覧

平成 27 年度の南富良野町教育行政執行方針で示された各分野ごとの基本目標に基づき実施した次の事務・事業を点検・評価の対象としています。

番号	事業区分	事 務・事 業 名
a-1	学校教育	学校の耐震化
a-2	学校教育	食の安全
a-3	学校教育	給食費の助成
a-4	学校教育	体罰・いじめ対策
a-5	学校教育	わかる授業の推進
a-6	学校教育	土曜授業の実施
a-7	学校教育	外国語教育
a-8	学校教育	体験型教育
a-9	学校教育	読書活動の充実
a-10	学校教育	キャリア教育の推進
a-11	学校教育	体力向上
a-12	学校教育	情操教育
b-1	高等学校	類型別学習
b-2	高等学校	習熟度別学習
b-3	高等学校	情報教育
b-4	高等学校	語学学習
b-5	高等学校	個々の実態に応じた多様な指導
b-6	高等学校	学習支援員の配置
b-7	高等学校	特別支援員の配置
b-8	高等学校	検定受験料の補助事業
b-9	高等学校	通学費助成事業
b-10	高等学校	国際交流派遣事業
b-11	高等学校	学校行事の一般参加型による実施
b-12	高等学校	大学との連携
b-13	高等学校	高等学校運営協議会・プロジェクト検討会議
c-1	生涯学習	第 6 次社会教育中期計画の展開
c-2	生涯学習	家庭教育に関する学習機会の提供
c-3	生涯学習	青少年に対する活動機会の提供
c-4	生涯学習	友好の町「沖縄県本部町」との親善交流事業
c-5	生涯学習	成人教育事業
c-6	生涯学習	千里大学（高齢者大学）事業

7 教育行政執行方針に基づく点検・評価対象事務事業一覧

c-7	生涯学習	英会話教室
c-8	生涯学習	芸術文化の振興
c-9	生涯学習	公民館図書室
c-10	生涯学習	公民館分館事業
c-11	生涯学習	住民自主企画活動支援事業
c-12	生涯学習	郷土資料室
c-13	生涯学習	スポーツ教室
c-14	生涯学習	スポーツ大会
c-15	生涯学習	アスリート補助金
c-16	生涯学習	スポーツ少年団活動
c-17	生涯学習	子ども朝活事業

8 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価の方法

教育行政執行方針に位置付けられて実施した主な42の事務・事業等について、「必要性」「有効性」「効率性」の3つの観点から自己点検及び自己評価を行いました。

また、評価の結果から事務・事業の課題等を踏まえた今後の方向性及び改善すべき点等を明らかにいたします。

(1) 点検及び評価

①点検項目と観点

・事務事業の点検、評価にあたっては、次の区分に掲げる観点から行います。

項 目	評価の観点	評 価 の 観 点 の 主 な 内 容
必要性	事業の成果	・ 十分な成果が期待できる事業か ・ 事業目的に即した事業か
	事業の妥当性	・ 時代に適合した事業であるか ・ 継続事業の場合、継続の必要性はあるか ・ 拡大又は縮小する必要はないか ・ 他に類似した事業はないか
	行政関与の必要性	・ 行政で関与すべき事業であるか ・ 行政でなければできない事業か
有効性	企画内容	・ 事業目的達成のための有効な事業内容となっているか
	実施方法	・ 成果を向上させるための有効な事業手法となっているか ・ 他の関係機関との連携を図っているか
効率性	実施主体の妥当性	・ 他の実施主体で行った方が効率的でないか
	経済性	・ 経済的な手法となっているか ・ 費用対効果を意識した事業となっているか ・ 受益者負担は適切であるか

②点検結果の評価区分

・各点検項目についてa～eの5段階評価を行い、評価区分により配点します。

ア 必要性に関する項目

区分	評定内容	配点	区分	評定内容	配点	区分	評定内容	配点
a	特に高い	30	b	高い	20	c	ふつう	10
d	やや低い	5	e	低い	0			

8 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価の方法

評価の方法	必要性の評価にあたっては、行っている事務・事業が、今の時代に本当に必要なのか。特に継続事業については、開始当時は必要とされていた社会的背景そのものが現在では大きく変化し時代遅れになっていないか、今の時代的ニーズに適合しているか、又、時代的ニーズがある事務・事業であってもその仕事を行政で行うべきか、民間と行政の役割分担を踏まえ、それらの観点から総合的に点検・評価します。
-------	---

イ 有効性に関する項目

区分	評価内容	配点	区分	評価内容	配点	区分	評価内容	配点
a	特に高い	35	b	高い	25	c	ふつう	15
d	やや低い	10	e	低い	0			
評価の方法	有効性の評価にあたっては、必要性が認められる事務・事業であっても、その事業の実施方法が目的を達成するための有効な手段となっていないかもしれません。成果をあげるための有効な実施手法となっているかの観点から総合的に点検・評価します。							

ウ 効率性に関する項目

区分	評価内容	配点	区分	評価内容	配点	区分	評価内容	配点
a	特に高い	35	b	高い	25	c	ふつう	15
d	やや低い	10	e	低い	0			
評価の方法	効率性の評価にあたっては、必要性が認められる事務・事業であっても、無駄があってはなりません。無駄を排除しながら効率的に事業を実施しているかの観点から総合的に点検・評価します。							

③点検対象事務・事業の総合評価

区分	合計点数	評価内容
A	90 点以上	適正に実施している
B	60 点～89 点	概ね適正に実施している
C	40 点～59 点	やや適正にかける
D	40 点未満	不適正である
評価の方法	上記の「必要性」「有効性」「効率性」の3つの観点から行った点検・評価の結果から総合的に導き出された各項目の合計点数により、実施した事務・事業の適正度をA～Dの4段階で評価します。	

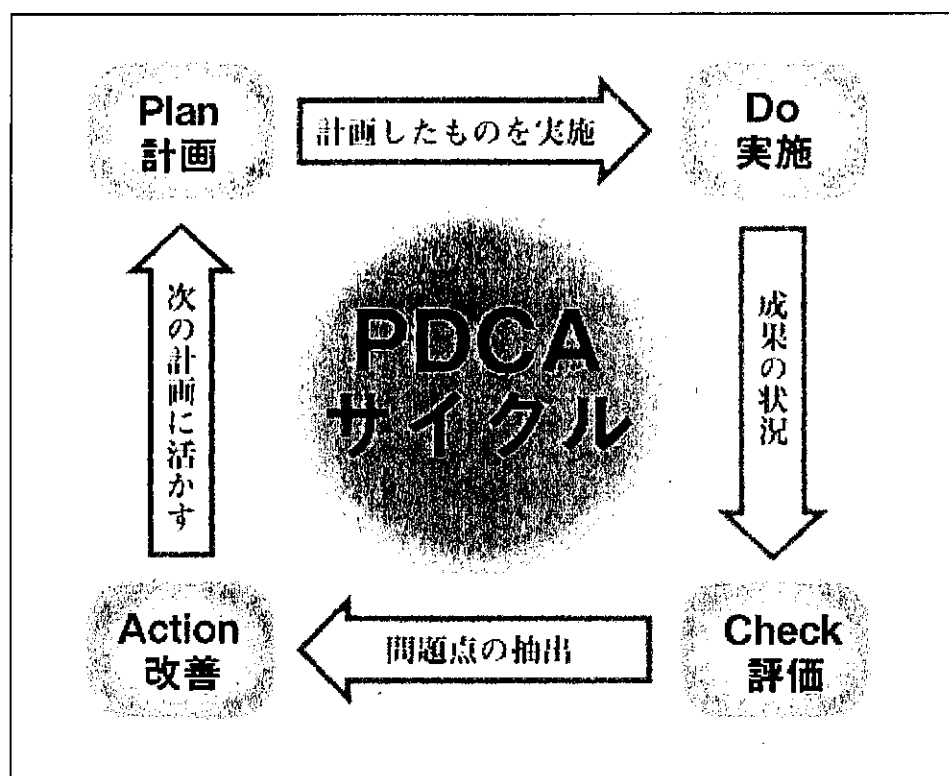
8 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価の方法

(2) 今後の方向性等

①点検・評価事務・事業の今後の方向性

・点検・評価の結果等からⅠ～Ⅳにより点検事務・事業の今後の方向性を示します。

区分	方向性	方 向 性 の 内 容
Ⅰ	継 続	今後も事業を継続し実施する。
Ⅱ	見直し	有効性、効率性を見直し、事業を継続する。
Ⅲ	廃止、休止	社会的必要性が認められないので、事業を廃止又は休止とする。
Ⅳ	完 了	事業目的を遂行したので、完了とする。



9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

区分	学校教育	基本目標 ①	小中校連携授業を引き続き実施し、英語教育をはじめ我が町の特色であるカヌー・カーリング等の体験学習、ダム湖や豊富な森林を活用した自然学習・環境学習を取り入れカリキュラムを実践する。 今年度から学校給食費の助成を図り子育て世代の家庭に支援を図る他、南富良野小学校では道のモデル事業として月に1回「土曜授業」を実施し、教科の復習や体験学習を行い学力向上に取り組む。			
No	事業名	事業目標	点検結果	課題・問題点等	評価委員の意見等	今後の方向性及びその方策等
1	学校の耐震化	安全・安心な学校づくり	総合評価	未整備校の高等学校校舎については、整備に係る財源の確保等を検討している。	高等学校校舎については、予算の関係で進めることが容易ではないと思うが、充分検討し耐震化を進めるよう継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			未整備となっている高等学校については、整備に係る財源の確保等を検討していく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			
2	食の安全	安全・安心な学校づくり	総合評価	給食センターとして、積極的なアンケート調査が実施出来ていなかった。	食習慣の改善指導、食事の大切さ、食材の安全性のみならず、栄養についても食育指導を継続していただきたい。 アレルギー調査についても、子どもの成長とともに変化することもあることから、継続していただきたい。	方向性 I 継続
			B			今後も、児童生徒に対する食品アレルギーの調査を行うことで、特異体質の児童生徒を把握し、各学校へ情報提供を行い給食の安全体制を強化する。 栄養教諭が配置されていることから、各学校で食育授業・食育指導を行い、食事の大切さや食材の安全性について指導を行う。
			必要性			
			a			
			有効性			
			b			
			効率性			
			c			
3	給食費の助成	安全・安心な学校づくり	総合評価	児童生徒保護者の経済的負担が軽減され、子育て支援も図られている。助成方法については、更なる充実に向けた取組について検討が必要である。	給食費が助成され、保護者の負担が軽減されていることから継続していただきたい。 助成については、町民へ向けた助成に関する啓発が必要であると思われる。	方向性 I 継続
			A			児童生徒保護者の経済的負担軽減が図られ、子育てが図られるとともに、少子化対策としても期待ができるもので、今後も継続していく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			b			
4	体罰・いじめ対策	安全・安心な学校づくり	総合評価	事業の実施により、いじめ・体罰等の問題はなかった。	いじめに関しては、一人ひとりの感受性の違いから起きることもあり、子どもに対して、具体的な事例を挙げて、指導することが必要であると思われるため、継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			今後も、子どもどうし、同学年・異学年での話し合いや触れあう教育活動を充実させ、友人や自分の良さに気づく活動として、豊かな人間関係を醸成するよう取り組む。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

5	わかる授業の推進	確かな学力の向上	総合評価	校内研修や各教師の自己研鑽による授業改善が図られているが、併せて、自ら学ぶ力を育み、家庭と連携して学習習慣を確立させる必要性も高い。	確かな学力を身に付けさせるには、教科書の内容を覚える勉強ばかりでなく、運動等の能力も評価し、自身を持たせ、勉強意欲を高めるような指導も必要であると思われるため継続をお願いしたい。	方向性	I	継続
			B			小中高連携教育推進協議会においても議論を深め、本町の子どもの学力向上を保障するため、各種検査結果の分析や課題を把握し、わかる授業と家庭学習習慣の確立に努めていく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
6	土曜授業の実施	確かな学力の向上	総合評価	北海道教育委員会が行ったアンケートでは、児童・保護者ともに好評であるが、これまでと変わらないという意見も多かった。土曜授業で何をしているのか、どんな効果が上がっているのかが分かりづらいとの意見もあり、積極的に土曜授業を公開した取組が必要。	土曜授業の実施により、教員の負担も懸念されるが、確かな学力の向上にもつながっていることから、継続をお願いしたい。土曜授業を積極的に公開することで、保護者にも成果や効果の理解を図ることができると思われる。	方向性	I	継続
			A			引続き、複数教員による指導体制により、少人数指導・習熟度別指導など、基礎・基本の定着を図り学力の向上に取り組む。 また、年間の実施回数、町内の他の学校での実施について検討する。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
7	外国語教育	確かな学力の向上	総合評価	巡回指導教員活用事業が前年度で終了したため、今年度よりALTのみで各学校の英語授業をサポートし、授業内容の充実を図った。	ALTを活用した外国語教育の継続をしていただきたい。 小学校においては、英語に拒絶反応を示さない子どもを育てるため、興味を持てる授業づくりをお願いしたい。	方向性	I	継続
			A			ALTを活用することにより、引き続き外国語教育の充実を目指していくとともに、小中高連携教育推進協議会においても情報交流を図っていく。		
			必要性					
			b					
			有効性					
			a					
8	体験型教育	確かな学力の向上	総合評価	本町の特色あるスポーツ種目などを実施し、高い教育効果を得ている。しかし、小学校低学年における教育内容の整備が課題となっている。	自然に囲まれた環境ながら、家庭での自然体験が非常に少ないため、継続をしていただきたい。体験学習については、今まで以上に興味の持てる体験学習も必要と思われる。また、小学校低学年の対応では、ボランティアの活用も考慮した授業の実施により、実施も容易になると思われる。	方向性	I	継続
			A			本町の子ども達に豊かな心や健やかな体を育成するため、本町の特色を生かした体験活動を計画的に積み重ねることが重要である。今後も発達段階に応じて教育の充実を図っていく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					

9	読書活動の充実	確かな学力の向上	総合評価	読書活動については、更なる充実に向けた取組について検討が必要である。	読書活動については、各学校において一斉読書を実施しており、継続をしていただきたい。 小学校における読み聞かせについては、ボランティア団体に依存しているため、学校と連携をした事業の実施を希望する。	方向性	I	継続
			B			読書活動については、学校のみでなく、地域や家庭、関係団体などとの連携を深め、更に充実した取組を進める。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			c					
			効率性					
			b					
10	キャリア教育の推進	確かな学力の向上	総合評価	子どもの発達段階に応じたキャリア教育の充実が必要である。特に、小学校でのキャリア教育を中学校・高校にどのようにつなげるかについて、交流する場を設定する必要がある。	キャリア教育の実施については、子ども達に勤労観、職業観を身に付けさせるため必要であることから、継続していただきたい。福祉の町を活用した、小・中・高等学校での実施には、学校間のつながりを意識した実施が望まれる。	方向性	I	継続
			A			小中高連携教育推進協議会での検討を行い、子どもの発達段階に応じた、体験活動や調査活動を計画的に積み重ね、自己の生き方を考える学習を充実させていく。また、本町は福祉の町であることから、それに関わる施設を活用した調査や体験を含めた、福祉について考える学習もキャリア教育の一環として学習活動を実施する。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
11	体力向上	健やかな心身の発達・育成	総合評価	各学校での取り組みを進めているが、道の事業推進内容でもある地域を含めた運動機会の創出が課題となっている。	どさん子元気アップチャレンジを活用するなどした事業については、子ども達が楽しみながらの体力向上を図ることができるところから継続をしていただきたい。 特に小学校においては、運動習慣の確立のため、全員が毎日運動する取組をお願いしたい。	方向性	I	継続
			A			子ども達が運動に親しみ、楽しく運動する態度の育成が図られるよう「どさん子元気アップチャレンジ」を活用し、運動機会の創出、体力の向上を図る。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
12	情操教育	健やかな心身の発達・育成	総合評価	小中高の子ども達の発達段階に応じたカリキュラムに配慮して環境教育を実施し、高い効果を得ている。	子ども達が生きることの大切さや尊厳を学ぶために、イトウを介した環境教育など、自然とふれあう教育の更なる充実を希望します。 また、挨拶運動への取組についても、充実を図った継続をお願いします。	方向性	I	継続
			A			本町の子どもたちに豊かな心や健やかな体を育成するため、本町の特色を活かした環境教育を計画的に積み重ねることが重要である。今後も発達段階に応じた教育の充実を図っていく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

区分	高等学校	基本目標 ②	生徒達一人ひとりの能力・適正及び進路希望に応じた教育活動を実践し、豊かな心の育成を目指して、様々な活動を体験させる地域の特色を生かした学校づくり。			
No	事業名	事業目標	点検結果	課題・問題点等	評価委員の意見等	今後の方向性及びその方策等
1	類型別学習	地域や時代の要請に対応できる学校づくり	総合評価	多様な進路希望を叶えるために必要である。	目標を定めた学習は、個人の学習意欲向上にも繋がると考えられることから、今後も継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			生徒の進路目標に対応するため、進学、就職コースのいずれかを選択させて効果的な学習を進め、20年度からは更に進学コース理系、文系の選択を行って、高い進路決定率を維持しており、今後も継続して実施していく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			
2	習熟度別学習	地域や時代の要請に対応できる学校づくり	総合評価	生徒個々の能力分布にばらつきが見られる。	個々の能力にあった授業により、苦手科目の克服を図り、前向きな学習姿勢が見られることから、今後も同様に継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			数学・英語の教科を習熟度別にクラス分けし、生徒個々の能力にあった学習内容で指導することで、学習に対する前向きな姿勢が育っており、苦手科目の克服や上級学校進学に効果が上がっていることから、今後も同様の内容で授業を進めていく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			
3	情報教育	地域や時代の要請に対応できる学校づくり	総合評価	今後入学者が減少しパソコンの不用台数が生じた場合、活用方法を検討する必要がある。	生徒にとってパソコンを利用した授業は、他の教科と比較して取り組みやすいものと思われる、社会に出た時に必ず活用できることから、時代の要請に対応出来る能力を育てる教育として継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して情報に関する科学的な見方や考え方を養い、社会の中で情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力を育てる教育は、今日においては極めて重要であり、資格取得にも有効であることから、時代の要請に対応した授業として今後も継続して実施していく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			
4	語学学習	地域や時代の要請に対応できる学校づくり	総合評価	生徒間の学力格差が大きいため、指導の工夫が必要である。	実践的な英会話の習得ばかりでなく、習得している語学力で如何に相手と意思疎通を図るか、と云った臨機応変な対応能力を養う事にもつながるものと思われるので、継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			外国語指導助手を活用し、コミュニケーション英語や英語表現などの授業において、実践的な場面設定を行うことにより、文化の相違などについて生徒の異文化理解が深まっていることから、今後も同様の内容で指導を工夫しながら授業を進めていく。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

5	個々の実態に応じた多様な指導	地域や時代の要請に対応できる学校づくり	総合評価	進学コース選択者数が増加し授業指導に工夫が必要である。	個々の生徒にあった指導のために、今後も同様に継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			4大、短大、看護学校等の進学に向けて、希望者に対する0時間、土曜講習の実施、夏季、冬季講習の充実を図るとともに、補習等への対応を図る。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
6	学習支援員の配置	生徒の確かな学力の向上	総合評価	各種講習も定着してきており顕著に学力向上に向かっている。	きめ細かな対応で、学習意欲の向上が図られると思われるので、継続していただきたい。 また、学習支援員を更に増員することで、学力向上も図られ、生徒確保の体制づくりにつながると思われる。	方向性	I	継続
			A			0時間講習、土曜講習を実施することにより生徒の学習意欲向上が図られたことから、24年度からは朝学習を平日毎に、土曜講習も可能な限り実施回数を増やすなどして、学力向上に努めていく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
7	特別支援員の配置	特別な教育的支援が必要な生徒の学力向上	総合評価	支援が必要な生徒に支援をし、学習意欲の向上を目指す。	生徒の現状を鑑みて、今後も支援員配置を継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			知的障害、情緒障害を持った生徒を中心に、他の支援が必要な生徒とともに学力向上を図っていく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
8	検定受験料の補助事業	特色ある学校づくり	総合評価	受験者数の増加により合格者数が伸びた。	各種検定試験受験料等の補助により、合格者数の増加という実績が出ていることから、生徒の学習意欲の向上が図られており、今後も継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			平成18年度から実施している検定受験料補助について、生徒の資格取得に対する意欲が高まるとともに集中力が高まることで授業にも良い影響を与えている。また、ホームヘルパー（介護職員初任に改正）受講料補助については平成21年度から実施している。 今後も生徒の資質・就職率の向上を図る上でも継続して実施する。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

9	通学費助成事業	特色ある学校づくり	総合評価	高校通学車両を運行した場合、少人数だと運行経費の費用対効果が低くなる。	生徒確保に有効であるならば、継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			平成18年度から通学費助成を実施しているが、町内から通学する生徒の交通費（町スクールバス利用全額、他交通機関利用5割）を助成することにより通学費の軽減が図られ、強いては町外からの生徒を確保（27年度7人）する上でも重要であることから、今後も継続して事業を実施する。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
10	国際交流派遣事業	国際理解教育	総合評価	生徒数の減少により応募者が派遣者の上限を下回る可能性がある。	この事業に参加した生徒は海外での体験を通して、自分の生き方を考える機会になり、また、この事業に参加をしたいと思います。個人で短期留学するには難しい部分も多いため、中学生に対し、事業のPRをもっと行っていただきたい。	方向性	I	継続
			A			国際交流派遣事業については、意欲ある生徒が海外での交流体験を通して語学力の向上はもとより、国際感覚を養い、また精神的にも成長し周りの生徒にも良い影響を与えており、生徒の素質向上を図る上でも重要であることから、今後も継続して実施していく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
11	学校行事の一般参加型による実施	地域と共にある学校づくり	総合評価	27年度初めての取り組みであり、一定の成果は得られたが、地域に受入れられる事業の継続が必要である。	高校に対する理解を深めるために有効であることから、継続していただきたい。小・中・高校が連携することで、事業が定着することが考えられる。また、生徒自身が町内を回り行事をPRをすることで、一般参加者を増やすこともできると思われる。	方向性	I	継続
			A			学校のあり方等理解してもらう機会であることから、今後も継続して実施していく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
12	大学との連携	生徒の学力意欲向上	総合評価	岩見沢教育大学及び札幌国際大学と連携を結び教育実習やカーリングでの交流を勧めているが、地域的に数回しか実施できない。	大学生の活動に接することで、生徒にはとてもいい刺激になると思われることから、継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			教育実習は、生徒の学力・意欲向上及び、部活動のカーリングの技術の向上のため、今後においても継続して実施していく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

13	高等学校運営協議会・プロジェクト検討会議	魅力ある 高校づくり	総合 評価	27年度入学 者は13名と定 員を大幅に割っ てしまったが、今 後においても中 学卒業者数の減 少が見込まれる ため、一層の生徒 確保対策が必要。	27年度は運営協議会 及び検討会議が開催され ておりませんが、生徒確 保に向け事業を継続して いただきたい。 会議内容が同様な協議 会等が複数あり、高校存 続に向けた思いは同じで あることから、協議会等 の集約の検討が必要と思 われる。	方向性	I	継続
			B			27年度の入学者は13名 になったが、今後において中 学卒業者数の減少が見込ま れ、存続に向けて一層の生徒 確保が必要なことから、継続 して実施していく。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			c					
			効率性					
			a					

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

区分	生涯学習	基本目標 ③	豊かな自然や歴史、文化などを活用して、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、子どもから大人まで、時間的、精神的ゆとりの中で、いつでも、どこでも、だれもが自由に学ぶことができる環境づくりに配慮。			
No	事業名	事業目標	点検結果	課題・問題点等	評価委員の意見等	今後の方向性及びその方策等
1	第6次社会教育中期計画の展開	第6次社会教育中期計画の展開	総合評価	毎年度の評価・検証の実施。	これまでも、社会教育中期計画の「学ぶ力・健やかな体・豊かな心を育むまちづくり」の基本理念に基づき、年次計画の施策を具体的に推進していることから、継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			社会教育を推進していくために、平成25年度から平成29年度までの行政計画であることから、社会教育委員の皆様方より評価・検証を受けながら施策の展開及び推進を図ります。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			
2	家庭教育に関する学習機会の提供	家庭教育力の向上	総合評価	少子化と核家族化、共働きや親になりきれない家庭（親）の増加により、家庭における教育力が低下している現状にある。	家庭での教育力の低下をフォローする取組として、講座の開催や親子スポーツを含め機会の提供を継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会の提供や、親同士の交流の場の提供を踏まえ、家庭教育支援の推進については従来どおり努めていきますが、見直し事項として、現在まで実施してきたブックスタート事業及び親子運動教室事業については、趣旨や事業の効率化を考えた時に、すこやか子ども教室での実施が相応しいとの判断に至り、平成28年度から事務事業を移管して実施します。
			必要性			
			a			
			有効性			
			b			
			効率性			
			a			
3	青少年に対する活動機会の提供	青少年の健全育成	総合評価	少子化や人口減少により、子ども達の体験活動の機会が減少してきている。	対外的活動は機会も参加者数も限られていることから、町内での活動や体験を発表する場を検討していただきたい。	方向性 I 継続
			A			青少年の健全育成を図るため、「少年の主張」や「青少年体験活動」への参加推奨を行っているところであり、発表やフィールドワーク、ワークショップ等での主体的な体験活動を通して本道の歴史や産業、自然環境、ボランティア、福祉等について学ぶことは、青少年の健全育成に資するものであり、今後も参加者の意欲向上を図りながら事業を継続していきます。 また、体験活動の成果を発揮する場所づくりも検討していきます。
			必要性			
			a			
			有効性			
			b			
			効率性			
			a			
4	友好の町沖縄県本部町との親善交流事業	友好の町沖縄県本部町との親善交流	総合評価	小学6年生全員を参加対象としていることから、児童の学習意欲が希薄になりがちなため、引き続き事前研修や授業において、しっかりとした目的意識を持たせる必要がある。	ホームステイの受入れでは受入れ家庭には大変な部分もありますが、子ども達に良い経験、体験となりますので、交流事業が物見遊山とならないように「沖縄の歴史」や「沖縄の現状」等を主とした事前研修をしっかりと行い、継続していただきたい。	方向性 I 継続
			A			本部町との交流事業は、平成3年度より実施しており、北と南の子ども達の友情の輪を広げ、風土・歴史・文化の違いを自ら体験し学ぶことは極めて貴重であり、子ども達に良い影響を与えているものと考えられる。今後も、趣旨に対する派遣児童並びに保護者の理解をより深め、また、引き続き交流事業での体験学習を学校授業に関連付けながら、児童の目的意識を高めるよう継続して実施する。
			必要性			
			a			
			有効性			
			a			
			効率性			
			a			

5	成人教育事業	各種団体の育成と自主的な活動に対する支援	総合評価	団体数の減少と会員の高齢化などにより学習機会や活動が低迷してきている。	女性団体の会員の減少や高齢化問題を解決し、活動機会を増やせるよう、新規会員を募る必要があると思われますので、事業の継続をしていただきたい。	方向性	I	継続
			B			女性が個性と能力を発揮し、社会のあらゆる分野に参画するためには、生涯学習の振興が重要であり、これまで女性団体を中心に学習機会の提供や活動に対する財政的支援を行っており、今後も女性の資質や能力向上のため継続した支援を行います。また、既存の団体とは別に、成年層の活動の推進を図ります。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
			効率性					
			b					
6	千里大学（高齢者大学）事業	高齢者の学習機会の提供	総合評価	高齢者の方が、千里大学への入学や学ぶ意欲の向上推進を図るために、授業内容の検討や工夫が必要である。	学ぶ意欲のある高齢者が通学しており、学生は生きがいとなっていることから、今後も継続していただきたい。授業では、幼児を持つ親、保育園児、小学生等との異世代交流の場を設け、高齢者の持つ生活体験を伝える機会を増やすなどした授業内容も必要であると思われる。	方向性	I	継続
			A			高齢期の共通課題の解決や地域の仲間づくり、自己の特性・経験・能力を発揮し、生きがい学習の場として提供しているが、本町の少子高齢化が進む中で、高齢者の持つ豊かな生活体験や人生経験を次世代へ伝えていくことは、極めて重要であることから、発表の機会の提供は、極めて重要であることから、今後も授業内容の充実を図り継続して実施していきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
			効率性					
			a					
7	英会話教室	町民の国際理解と語学力の向上	総合評価	多くの町民の方に参加していただけるように、授業内容等の工夫や見直しが必要である。	これからの社会には英語が必要な場面も多いと思われるため、意欲ある町民の学習の場として、継続していただきたい。	方向性	I	継続
			B			今後も町民の学ぶ意欲を促進させるため、外国語指導助手を活用し、授業内容の工夫と充実を図りながら、学習機会の場の提供に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
			効率性					
			b					
8	芸術文化の振興	文化活動に対する支援と鑑賞事業の充実	総合評価	文化協会員の高齢化や役員が固定化されつつあることから活動支援が必要である。	文化協会員の高齢化、役員の固定化が見られるが、会員には生きがいとなっている面もあり活動への支援が必要と思われる。また、鑑賞事業では演劇公演の実施により、舞台芸術の鑑賞機会が提供されているため、今後も継続していただきたい。	方向性	I	継続
			B			地域に根付いた創造的な文化活動の促進を図るためには、文化協会を中心としたサークル活動等が重要であり、今後も主体的な団体活動の活性化に向けた支援に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
			効率性					
			b					

9	公民館図書室	読書活動の推進	総合評価	図書館がなく、公民館に図書室を設置し、町民が利用しやすい環境整備を年次計画で実施していますが、司書等の専任職員の配置がないため、図書室として十分に機能できていない。	図書室の運営管理、指導を担う図書館司書の配置がないため、十分に機能できていない面もあるが、事業は継続していただきたい。 図書館司書を配置し、図書館の管理のみならず、小中学校の図書管理、生徒の読書環境の充実を手掛ける環境づくりも必要と思われる。	方向性	I	継続
			B			読書は、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするものであることや、子どもの読書離れが学力低下の一つの要因として挙げられていることなどから、引き続き富良野沿線5市町村の連携の取り組みや利用者ニーズに合った蔵書の充実に努め、第2期読書推進計画に基づき、道立図書館や関係機関、ボランティアと連携を図り、図書室機能の向上と読書活動の推進に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			b					
			効率性					
10	公民館分館事業	地域の特性を活かした活動の推進	総合評価	各地域で事業は実施しているものの、参加者の固定化が見受けられている。	公民館は、社会教育の拠点施設であり、分館では各地域の特色を活かした事業が実施されているので、今後も地域住民のニーズに応じた事業を継続していただきたい。 地域によっては小学校に頼りすぎた活動をしており、分館事業を地域の事業として実施することが必要と思われる。	方向性	I	継続
			A			公民館機能の充実を図るため各地区に分館を設置し、地域住民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図るべく、各地域の特色を活かした事業等が実施されていることから、今後も住民ニーズを把握しながら、地域おこし協力隊との連携によるコミュニティ機能を活性化させ健康で文化的な事業が実施できるよう支援に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
11	住民自主企画活動支援事業	住民の自主的活動に対する支援	総合評価	より多くの町民の方に利用していただけるように、制度周知が必要である。	住民自ら企画する生涯学習活動に対し、自主活動の支援と促進を図っているが、内容が素晴らしい企画であっても、参加者が20人程度の事業もあることから、企画内容や開催日の周知に工夫が必要と思われる。事業については、継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			住民自らが企画する事業に対し、その費用の一部を助成しており、地域社会・生活の課題解決や健康増進、コミュニティ活動の推進等に成果があり、今後も事業の普及に向けて啓発に努め、住民の自主的活動を支援しながら、個人・団体活動の促進・推進に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
12	郷土資料室	郷土資料の保存・展示	総合評価	高齢者研修センター内に郷土資料室を設置しているが、管理人を配置しておらず、利用の都度職員が出向き開錠していることから、町民の方が利用しやすい場所の選定や環境づくりの検討が必要である。	郷土資料室は町の歴史を知る貴重な場であるが、施設の老築化、展示スペースの狭さ、管理人の未配置等、資料室の有効活用を図るための体制は検討が必要と思われる。事業については、継続していただきたい。	方向性	I	継続
			B			本町の歴史を後世に伝えるため、郷土資料を収集・保存・展示し、観覧希望者に開放している。今後は、教育的活用を一層促すとともに、文化財審議会委員などの有識者から助言を得て展示方法を工夫するほか、学芸ボランティアの配置など、町民の方が利用しやすい環境づくりの検討に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			c					
			効率性					
			a					

13	スポーツ教室	各種スポーツの振興	総合評価	町民が個々の生活の中にスポーツを積極的に取り入れて、体力づくりや健康増進活動を日常化していくことが求められている。	生涯の各時期においてスポーツに親しみ、体力増進や健康のため日常化を目指し、新たなスポーツを含めた普及・指導活動が求められているので、今後も継続していただきたい。可能な種目については、主催を関係団体に移管することも大いに検討すべきと考えられる。	方向性	I	継続
			A			町民が心身ともに健康で充実した生活を送ることが出来るよう、生涯の各時期における健康づくりとスポーツに親しむことができる環境整備のため、スポーツ関係団体と連携しながら、本町の特性を活かしたスポーツの普及促進と競技人口の増加に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
14	スポーツ大会	各種スポーツの振興	総合評価	種目によっては競技団体が主催する形が望ましいが、会員数が少ないなど組織が未成熟なため事業を移管できていない、年々参加者が減少している現状にある。	スポーツ団体の会員数減少で1組織による大会開催は困難な状況になりつつあるが、各種大会の主催を関係団体に移管を進めることで、単に参加者であった団体会員がスポーツ振興に向き合うことになり望ましいと考えられる。しかし、関係団体への移管は更なる活動資金支援も検討が必要と思われるが、世代を越えた交流を図ることもできるため、今後も継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			人間関係が希薄化する中、スポーツを通した住民の心身の健全な発達のみならず、世代を越えた地域や職場のコミュニティーづくりに大きな成果を上げていることから、引き続きスポーツ関係団体等と連携を図りながら事業の推進に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			b					
15	アスリート補助金	各種スポーツの振興	総合評価	補助金であるため申請事務が煩雑。	町民や関係団体へ支給基準の周知が必要と思われる。多くの町民が利用できる補助制度として継続していただきたい。	方向性	I	継続
			A			補助金を適正に執行するための申請事務や制度周知を幅広く行いながら、引き続き事業を継続していきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					
16	スポーツ少年団活動	子ども達の心身の健全な育成	総合評価	少子化により児童生徒数が減少傾向にあることから、子ども達のスポーツに対する興味・関心を高める取り組みが必要である。	子ども達の体力低下が懸念されている中、子ども達がスポーツ活動に対し興味・関心を高め、体力増進を図っており、子ども達の頑張りにより結果にも現れている。継続的な少年団活動への支援と共により、指導者不足であることから、指導者の育成支援も必要である。	方向性	I	継続
			A			子どもの体力低下が問題視される中、スポーツを通して心身の健全な育成に大きな成果を上げている。また、活動を通して協調性やコミュニケーション能力の向上にも成果を上げている。今後もスポーツ少年団本部活動への支援と共に、連携を図りながら事業を継続する。また、子ども達の安全と技術向上と少年団活動の継続を図るための指導者育成のための施策の検討に努めていきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					

9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧

17	子ども朝活事業	規則正しい生活習慣の定着	総合評価	平成27年度からの新規事業として概ね教育委員会が主導で実施しましたが、今後においては各関係機関との連携（会議）により実施内容等について協議を行いながら進めて行く必要がある。	長期休業に入ったばかりの子ども達は、学校の授業とは異なった雰囲気の中で伸び伸びと学習しており、体験プログラムについても頭と身体を使った企画で楽しい体験プログラムであることから、事業の継続をしていただきたい。	方向性	I	継続
			A			各関係協力機関や学校との連携により、実施内容等についての協議を行いながら、事業を継続していきます。		
			必要性					
			a					
			有効性					
			a					
			効率性					
			a					

10 前年度点検・評価対象事務・事業の状況

前年度の点検・評価対象事務・事業のうち、今後の方向性で廃止、休止、完了とした事務・事業以外の当該年度における点検・評価の結果及び方向性は次のとおりです。

(1) 当該年度点検・評価対象事務・事業

前年度点検・評価対象事務・事業名 (廃止、休止、完了事務・事業を除く)	前 年 度		当 該 年 度		備 考
	総合 評価	方向性	総合 評価	方向性	
1. 学校教育					
① 学校の耐震化	A	継続	A	継続	
② 食の安全	B	継続	B	継続	
③ 給食費の助成	A	継続	A	継続	
④ 体罰・いじめ対策	A	継続	A	継続	
⑤ わかる授業の推進	B	継続	B	継続	
⑥ 土曜授業の実施	A	継続	A	継続	
⑦ 外国語教育	A	継続	A	継続	
⑧ 体験型教育	—	—	A	継続	新規
⑨ 読書活動の充実	A	継続	B	継続	
⑩ キャリア教育の推進	A	継続	A	継続	
⑪ 体力の向上	B	継続	A	継続	
⑫ 情操教育	A	継続	A	継続	
2. 高等学校教育					
① 類型別学習	A	継続	A	継続	
② 習熟度別学習	A	継続	A	継続	
③ 情報教育	A	継続	A	継続	
④ 語学学習	A	継続	A	継続	
⑤ 個々の実態の応じた多様な指導	A	継続	A	継続	
⑥ 学習支援員の配置	A	継続	A	継続	
⑦ 特別支援員の配置	A	継続	A	継続	
⑧ 検定受験料の補助事業	A	継続	A	継続	
⑨ 通学費助成事業	A	継続	A	継続	
⑩ 国際交流派遣事業	A	継続	A	継続	
⑪ 学校行事の一般参加型による実施	—	—	A	継続	新規

10 前年度点検・評価対象事務・事業の状況

⑫	大学との連携	A	継続	A	継続	
⑬	高等学校運営協議会・プロジェクト検討会議	A	継続	B	継続	
3. 生涯学習						
①	第6次社会教育中期計画の展開	A	継続	A	継続	
②	家庭教育に関する学習機会の提供	A	継続	A	見直し	
③	青少年に対する活動機会の提供	A	継続	A	継続	
④	沖縄県本部町との親善交流事業	A	継続	A	継続	
⑤	成人教育事業	B	継続	B	継続	
⑥	千里大学（高齢者大学）事業	B	継続	A	継続	
⑦	英会話教室	B	継続	B	継続	
⑧	芸術文化の振興	B	継続	B	継続	
⑨	公民館図書室	B	継続	B	継続	
⑩	公民館分館事業	A	継続	A	継続	
⑪	住民自主企画活動支援事業	A	継続	A	継続	
⑫	郷土資料室	B	継続	B	継続	
⑬	スポーツ教室	A	継続	A	継続	
⑭	スポーツ大会	A	継続	A	継続	
⑮	アスリート補助金	A	継続	A	継続	
⑯	スポーツ少年団活動	A	継続	A	継続	
⑰	子ども朝活事業	—	—	A	継続	新規

(2) 当該年度点検・評価対象事務・事業について

前年度点検・評価対象とした事務・事業で、当該年度においても対象となった事務事業は、全部で39事務・事業でありました。前年度総合評価で「A」と評価した30事務・事業のうち、当該年度「A」評価が28事務・事業、「B」評価が2事務・事業、前年度「B」と評価した9事務・事業のうち当該年度「A」評価が2事務・事業、「B」評価が6事務・事業、又、今後の方向性で前年度「継続」と示した38事務・事業のうち、当該年度「継続」が37事務・事業という結果でありました。

11 学識経験者

平成 27 年度教育委員会事務の管理及び執行の状況における点検・評価の方法や結果等について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者として南富良野町教育委員会教育行政評価委員から意見等を聴取し、知見の活用を図っています。

1. 南富良野町教育委員会教育行政評価委員

氏 名	職 業 等
河 原 希 美	団体臨時職員（中（保体）教諭 2 種免許所有）
西 山 雅 明	無職（南富良野町社会教育委員長）

2. 意見聴取日等

日 時	場 所
平 成 2 8 年 8 月 1 9 日	南富良野町役場 中会議室
平 成 2 8 年 8 月 2 2 日	南富良野町役場 中会議室
平 成 2 8 年 8 月 2 6 日	南富良野町役場 中会議室

3. 意見の内容

（1）各事務・事業ごとの点検・評価に関することについて

各評価委員から点検・評価に対し出された意見の内容については、「9 教育行政執行方針に基づく事務・事業等の点検・評価結果一覧」に記載しています。

12 教育委員会の組織

1 教育委員会委員（平成 27 年度在籍者）

職 名	氏 名	任 期	保護者	備 考
委員長	河野 高好	平成 26 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 30 日		第 2 期目
委員長 代 理	沢田 正人	平成 23 年 10 月 1 日～ 平成 27 年 9 月 30 日	○	第 3 期目
委 員	齋藤 忠宏	平成 24 年 11 月 16 日～ 平成 28 年 11 月 15 日		第 3 期目 (平成 28 年 10 月 1 日 ～委員長代理)
委 員	久保田宏孝	平成 25 年 10 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日		第 3 期目
委 員	大神 裕全	平成 27 年 10 月 1 日～ 平成 31 年 9 月 30 日	○	第 1 期目
教育長	上林 康政	平成 24 年 11 月 16 日～ 平成 28 年 11 月 15 日		第 1 期目

2 事務局組織（平成 27 年度現在）

